

おおさとスマートスポーツパーク構想 住民説明会

日時 令和6年7月8日（月）
午後6時30分～
会場 大郷町文化会館 大ホール

次 第

1 開 会

2 開会挨拶 大郷町長 田中 学

3 説 明

(1)おおさとスマートスポーツパーク構想について

(2)大郷町スマートスポーツパーク事業について

4 質疑応答

5 閉会挨拶 大郷町 副町長 金須 豊洋

6 閉 会

おおさとスマートスポーツパーク構想 住民説明会

令和6年7月8日

復興推進課

1

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(1)はじめに

用地取得までの流れ

①用地測量
(予算可決済)



②用地図の作成
(予算可決済)



③面積の確定
(予算可決済)



④用地売買契約

設計の流れ

①地形測量
(予算可決済)

②地形図の作成
(予算可決済)

①地質調査

②地質解析
・既存資料の収集
・軟弱地盤解析など

③設計・マネジメント

【設計】

- ・設計図（概略・詳細）の作成
- ・必要盛土量の算出
- ・概算工事費の算出
- ・防災調整池の検討 など

【マネジメント】

- ・関係機関への申請・調整
- ・申請・調整に関する各種資料作成
- ・土砂搬入計画の作成・現地調整 など

2

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(2)本日までの経過

年月日	内容	備考
R4.5.31	大郷町とスポーツX社がかわまちづくり事業について意見交換	
R4.8.17	大郷町長がスポーツX社広島事業所視察 スポーツX社がスポーツ事業構想を説明	
R4.10.6	スポーツX社が大郷町へ農業とスポーツの事業構想を説明	
R5.2.27	スポーツX社が大郷町議会議員全員協議会にて事業構想説明	
R5.3.16	スポーツX社提案事業の事業化調査検討業務委託費が大郷町議会 3月定例会にて可決	
R5.4.28	事業化調査検討業務委託契約	
R5.5～7	事業手法の検討により地域未来投資促進法を活用する方針決定	
R5.8.21	事業構想説明会（粕川地区行政区長対象）	
R5.8.24	事業構想説明会（計画地内で営農する農業法人対象）	
R5.8.25	事業構想説明（大郷町農業委員会対象）	
R5.9.2・4	事業構想説明会（計画地内の地権者対象）	
R5.9.2～ 11.18	地権者に対する事業や農業に関するアンケート調査を実施	

3

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

年月日	内容	備考
R5.11.19	地権者アンケート調査報告会（計画地内の地権者対象）	
R5.11.24	スポーツX社小山社長が大郷町長・大郷町議会議長に面会 事業化検討の進捗状況などを報告	
R5.12.26	地域未来投資促進法に基づく宮城県大郷町基本計画に国が同意	
R6.1.23	計画地内で営農する農業法人を対象に事業化検討の進捗状況報告	
R6.2.19	事業化調査検討業務委託による調査結果を大郷町議会議員全員協議 会にて報告（事業の基本方針・整備計画・経済効果・委託費を除く 概算事業費・事業スケジュール）	
R6.3.19	地域未来投資促進法に基づく土地利用調整計画を宮城県が承認	
R6.3.29	地域未来投資促進法に基づく地域経済牽引事業計画を宮城県が承認	
R6.4.6	事業説明会（計画地内の地権者対象）	
R6.4.22	SSP計画地の全地権者が土地の売買と農振除外について同意 （地権者27名、129筆、188,870㎡）	
R6.4.22	大郷町議会議員全員協議会にて、スポーツX社から地域経済牽引事 業計画について説明、町から本構想に係るスケジュール及び関連予 算について説明	

4

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

年月日	内容	備考
R6.4.26	大郷町議会臨時議会にて、スポーツX社事業計画地の用地測量を実施する委託費等を計上した補正予算案が可決	
R6.5.9	大郷町議会からの要請により、R5年度に実施したスポーツX社の財務状況調査結果を提出（七十七リサーチ&コンサルティング社実施、スポーツX社の直近3期分の決算資料の分析結果）	
R6.5.9	大郷町議会議員全員協議会にて、スポーツX社からスポーツX社並びに関連会社の直近の決算状況を説明（資料は投影のみ）	
R6.5.28	大郷町復興まちづくり事業住民説明会にておおさとスマートスポーツパーク構想について説明	
R6.5.31	大郷町とスポーツX社が立地協定を締結	
R6.6.7	大郷町議会6月定例会において上程した補正予算案に修正動議が提出され、本構想関連予算を削除した修正動議が可決	
R6.6.17	事業計画地地権者一同より町に対し事業の着手に関する要望書提出	
R6.6.18	今後のスケジュールについて粕川6行政区長へ説明	
R6.6.21	粕川6行政区長より町に対し事業の促進に関する要望書提出	
R6.6.24	おおさとスマートスポーツパーク構想に関する調査特別委員会にてSSP構想並びにSSP事業について説明	

5

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

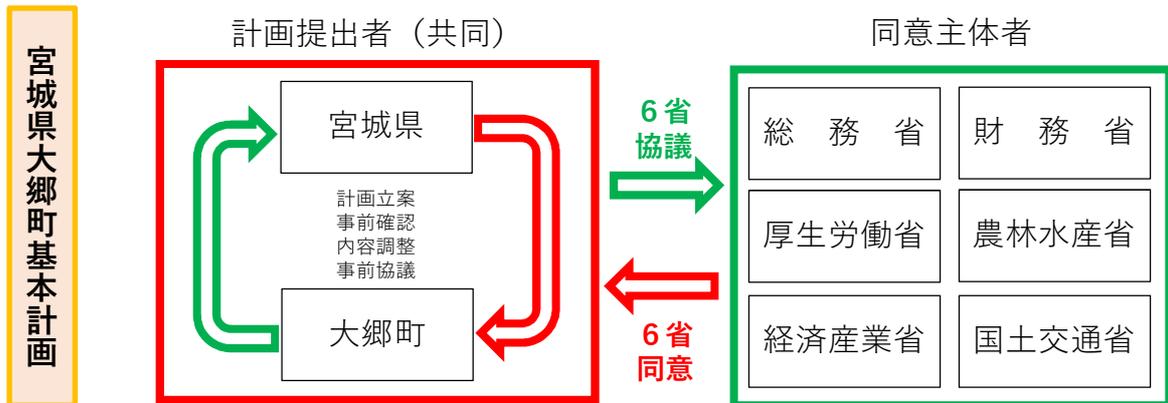
年月日	内容	備考
R6.7.3・4	大郷町議会議員に対し、スポーツX社並びに関連会社の決算資料を開示し、決算状況及び事業内容について説明・質疑応答(9名参加)	
R6.7.8	おおさとスマートスポーツパーク構想住民説明会（事業手法・事業スケジュール・概算事業費・農業団地の整備方針を説明）	

6

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(3)地域未来投資促進法関連計画同意・承認の流れ

①宮城県大郷町基本計画の同意までの流れ



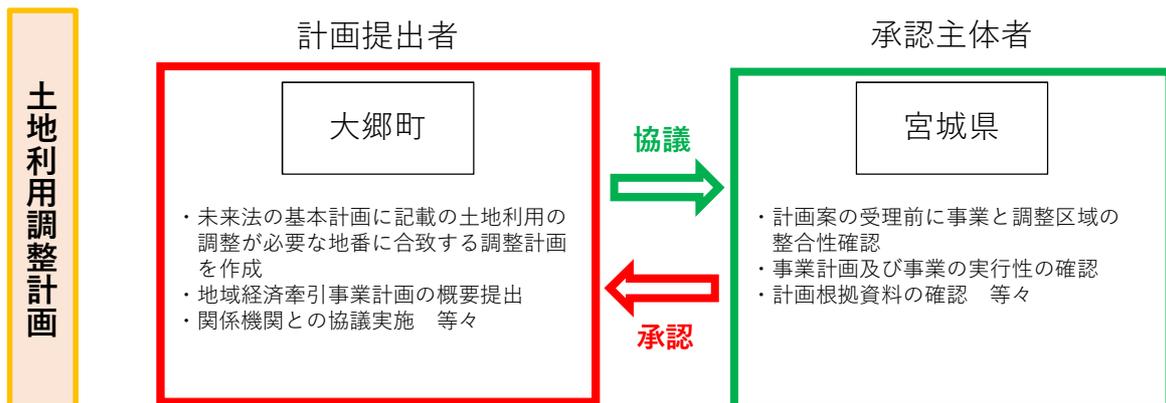
SSP構想について

大郷町が計画案を作成し、宮城県や関係機関との協議により内容を調整し、宮城県と大郷町の連名にて、同意主体者である各省大臣あて計画を提出し、令和5年12月26日に各省大臣の同意をいただきました。

7

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

②土地利用調整計画の承認までの流れ



大郷町が「宮城県大郷町基本計画」に定める土地利用の調整が必要な区域の範囲内で事業に必要な最低限の土地を記載した計画案を作成し、宮城県や関係機関との協議により内容を調整し、承認主体者である宮城県知事あて計画を提出し、令和6年3月19日に知事の承認をいただきました。

8

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(5)R6年度スケジュール

年月日	内容	備考
R6.7.8	おおさとスマートスポーツパーク構想住民説明会	
R6.7.下旬	(予定) 大郷町議会臨時議会 (SSP関連予算上程)	
R6.8月	SSP事業各種業務委託発注・契約 地権者と用地売買仮契約	事業化可否 最終判断期限
R6.9月	農振除外手続き完了・開発事前相談	
R6.10月	農地転用申請・関係機関協議等	
R6.11月		
R6.12月	定例議会にて用地取得上程	
R7.1月	第2工区部分に資材仮置き開始予定	
R7.2月		
R7.3月		

※上表は令和6年7月8日現在の見込みです。

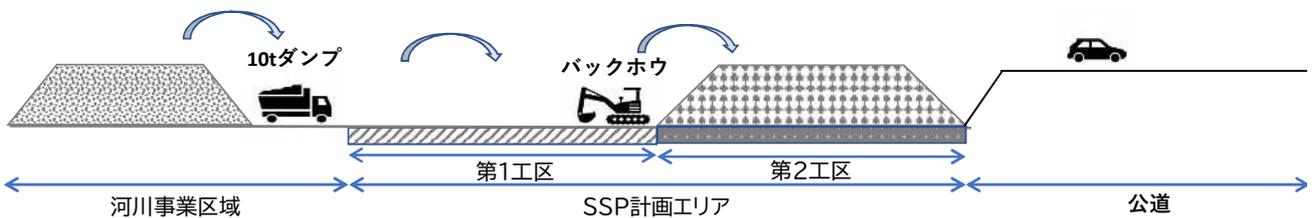
11

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

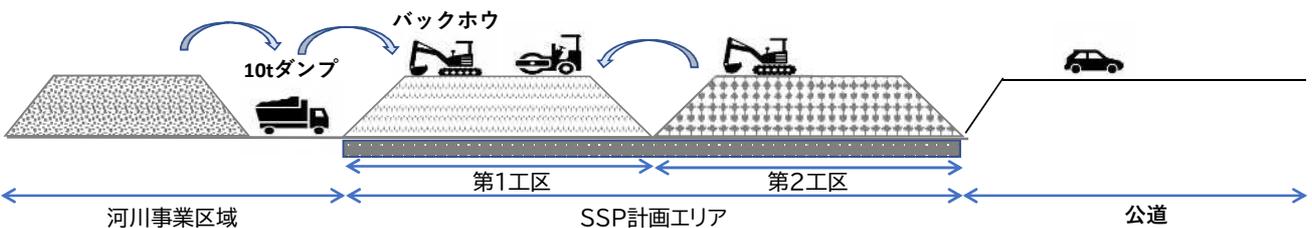
(6)造成にあたっての役割分担(予定)

大郷町	国土交通省	スポーツX(株)
造成設計・土配調整	盛土材運搬・敷き均し	造成以降の土木・建築工事

R6年度施工イメージ



R7年度施工イメージ



河川掘削土
 田地表土(鋤取り前)
 田地表土(鋤取り後)
 第1工区盛土
 第2工区盛土

12

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(7)用排水路の検討

下図のとおり既存用排水路の一部を寸断するため、水路の切り回しを設計・施工する必要がある。



○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(8)概算事業費

おおさとスマートスポーツパーク構想所要予算試算表

令和6年7月8日現在

【SSP事業関連経費】 〔単位：円〕

予算科目	事業費	4月臨時 議会補正	次回補正 計上案	今後 見込み	財源	備考
用地費	114,000,000	0	114,000,000	0	一般財源	賃貸借契約により用地費相当収入見込み
委託費	79,200,000	24,970,000	54,230,000	0	一般財源 企業版ふるさと納税	用地測量・地形測量(約20ha)、ボーリング調査・地盤解析、盛土・用排水路設計、事業間調整、各種申請手続き関連業務ほか
工事費	77,220,000	0	0	77,220,000		※設計結果により精査する。
合計	270,420,000	24,970,000	168,230,000	77,220,000		

【公園整備関連経費】 〔単位：円〕

予算科目	事業費	4月臨時 議会補正	次回補正 計上案	今後 見込み	財源	備考
用地費	12,500,000	0	4,600,000	7,900,000	一般財源	次回補正0.9ha/2.5ha、R7以降1.6ha/2.5ha
工事費	※実施計画未策定のため未計上。策定後計上予定。					
合計	12,500,000	0	4,600,000	7,900,000		

【全体事業費】 〔単位：円〕

事業区分	事業費	4月臨時 議会補正	次回補正 計上案	今後 見込み	財源	備考
SSP事業費	270,420,000	24,970,000	168,230,000	77,220,000		
公園事業費	(※3) 12,500,000	0	4,600,000	7,900,000		
合計	282,920,000	24,970,000	172,830,000	85,120,000		

※1未実施の項目は、参考見積結果や積算結果を基に算定しています。工程や実施内容の変更に伴い金額は変更になります。
 ※2事業の進捗状況に応じ、計上時期や実施時期が変更になります。
 ※3実施計画策定後、工事費等を計上するため、今後変更になります。

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(9) 農業団地整備方針

- 農業団地エリアは、スマート農業等による「持続的な地域農業」を展開する用地として、参入企業に対し、ご紹介することを想定しています。
- 区画は大きく分けて2つ整備し、1つ目の区画は大規模な環境制御型園芸施設用地として30ha、2つ目の区画は営農型ソーラーシェアリングや観光農園等により農業に対し付加価値を高める用地として8haとする方針で検討を進めています。



図 環境制御型園芸施設イメージ



図 営農型ソーラーシェアリングイメージ

15

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(10) 町としての検討状況

- 今回の構想計画地内の地権者アンケート結果より、全地権者の4人に3人が後継者がいないと回答があったことから、持続可能な農業環境・農業形態の推進は急務と考えられる。
- 天候等に左右されやすい土地利用型農業のみならず、環境制御型園芸施設や営農型ソーラーシェアリングといった経営形態の普及が一つの解決策となると考えている。
- また、農業に触れる機会の提供として、自身で栽培する貸農園だけでなく、もっと気軽に農業に触れる体験農園や農業を学ぶ農業学校といった体験機会の提供、人材の育成が必要と考える。

(11) 参入検討企業の検討状況

- これまでの報道を受けて、**スポーツエリアの整備が進むことを前提に、複数社から参入について検討**している旨のご連絡を受けています。
- ある企業では、農業のクリーンエネルギー化をコンセプトに、**環境制御型園芸施設での事業形態**を検討されています。
- ある企業では、スポーツ企業が農業と連携し、アカデミー生や選手が農業に従事することから、**新規就農者向けの農業塾などの事業形態**を検討されています。
- 別の企業では、スポーツ企業の進出により一定の誘客が見込めることから、**観光農園やふれあい農園**といった事業展開では、**安定的な収入源として営農型ソーラーシェアリング**を同時展開する事業形態を検討されています。

16

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

(12)事業による副次的効果

・地方への移住者を募り「定住人口」の獲得を目的とする取り組みとして、町は団地造成など移住促進のための施策を行っていますが、“このまちに骨を埋める覚悟はあるか”という町側の強い想いが、いずれは地域で暮らしてみたい、地域で自分を活かしてみたいと考えている人にとって**非常に高いハードル**になっているものと思われます。（総務省HPより）

⇒過疎地域への移住者に対する全国アンケート調査（H29総務省実施）

○移住する際に重視した条件は

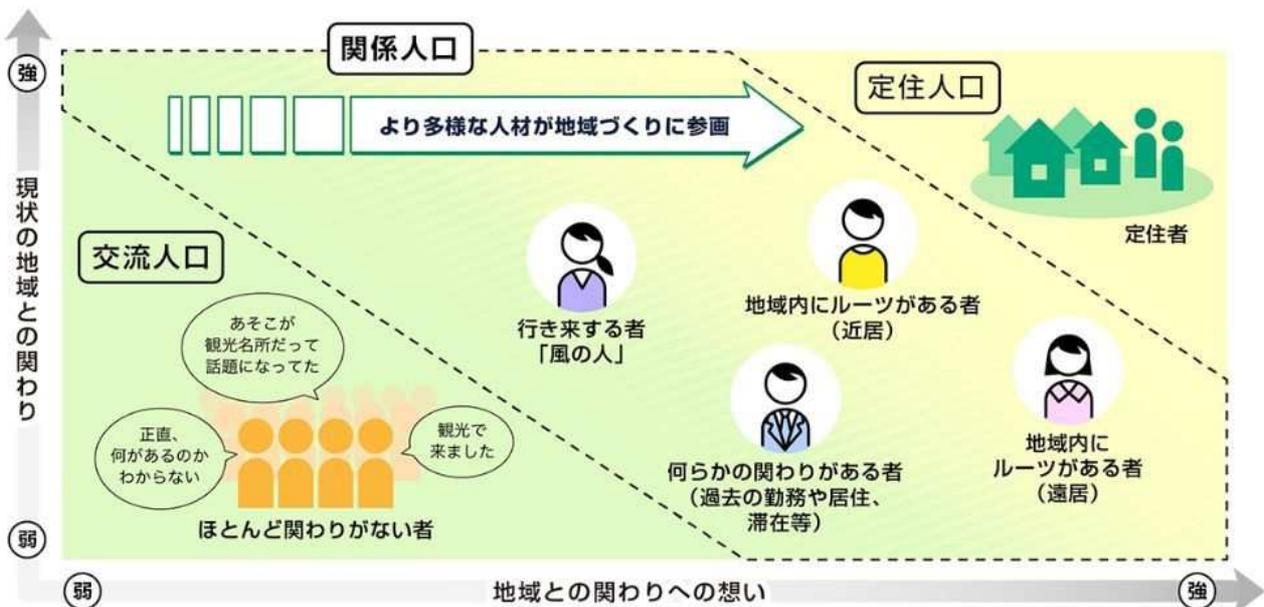
- ・生活が維持できる仕事（収入）がある
- ・買い物や娯楽など日常生活に必要なサービスや生活施設があること
- ・病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っている
- ・子育てに必要な保育・教育施設が整っていること
- ・何年か行き来して知り合いができたり、生活していける目処が立っていること

将来的な定住人口の獲得には、
大郷町を知ってもらうことこそ必要

17

○ おおさとスマートスポーツパーク構想について

SSP事業による年間80万人の地域に関わる町のファン（**交流人口**）を増やす→
高い頻度で地域に関わる人（**関係人口**）になり、やがては「**定住人口**」へ！



・「**関係人口**」とは、移住した「**定住人口**」でもなく、観光に来た「**交流人口**」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。

18

「農業×スポーツ」一体型教育施設の開発

～兼業農家アスリートが活躍し、笑顔あふれる豊かな社会づくりに貢献する～



スポーツX／みちのく仙台FC：岡準一郎



岡 準一郎 (30歳)

スポーツX経営企画部／みちのく仙台FC代表取締役

1993年に兵庫県の神戸市にて誕生し、学生時代を東京で過ごす。

7歳よりラグビーを始め、中学・高校・大学とラグビーを続ける。大学3年時からは指導者に転向し、ラグビー日本代表の合宿にも帯同しながら、ラグビー界のトップレベルを身近に体感。

2016年に新卒で伊藤忠商事に入社し、国内の物流不動産開発に従事した後に、新規事業開発部署にてスポーツビジネスを担当。

2019年にスポーツXと出会い、2020年4月にスポーツXに転職。

2022年3月みちのく仙台FC設立、代表取締役社長就任。

宮城県から東北・日本を代表するクラブを目指して日々活動中。



スポーツX株式会社：事業内容



2018年からガーナ人を獲得・現在6名在籍
元ガーナ代表の社員
ガーナ2部クラブの経営



日本・ベトナム・シンガポール 19,000人通学中のスクールを投資育成



西武ライオンズスクール：200人→3300人、黒字化へ

サッカースクール運営での実績が認められ、西武ライオンズの野球スクールを運営受託。当初200人程だった会員を3,300人まで増やし、黒字化を実現。観客数10年60%増にも大きく貢献（埼玉県外のファン層拡大にも寄与）



スポーツX・広島
サッカーグラウンド3面&600人宿泊の施設を運営
大企業の遊休施設のターンアラウンド

年間交流人口50万人目標／地域の持続的成長

広島県福山市にてツネイシグループ（造船業・創業120年・売上2600億円）が運営していた年間約8万泊、売上6億円の事業を好条件で継承し、2021年より運営開始。サッカーフルコート3面＋600人収容宿泊施設を活用しながら、300人超のアカデミー事業、合宿大会事業を展開。



平日は300人超のアカデミー／スクール事業にて活用され、多くの子どもたちが夢を抱き、成長する場となっている。

休日は九州～関西エリアのスポーツクラブを巻き込んだ合宿大会事業・修学旅行・企業研修などで活用されている。

*期間限定の事業開発拠点であり、十分ノウハウが蓄積され、自社施設開発フェーズに移ることから、2023年12月に閉鎖



スポーツX・強化メソッド

元U15/16/17/18 日本代表監督、U17W杯ベスト8・過去最高成績

福島ユナイテッドFC（J3）の運営参画・約20名を派遣



スポーツを通じて、貧困・機会の不平等をなくす

プロスポーツクラブを通じた、人づくり・まちづくり
スポーツが、社会インフラとなる未来

アカデミー「教育」

次世代を担う人材の育成



スポーツと勉強を両立する「文武一体型」アカデミーを展開し、思考・創造力と異なる他者と協働する能力を兼ね備えた、文武一体人材を輩出。

トップチーム「夢」

多様な主体が集まるコンテンツ



トップチーム選手がSSP・アカデミー業務を担うことで、チーム強化のための投資費用から持続可能な事業投資へ。

SSP「都市」

年間50万人の交流人口創出



人工芝4面+天然芝2面のグラウンドと500名収容の宿泊施設（標準モデル）を兼ね備え、多様な人が訪れ、地域コミュニティを形成する拠点。

地域に多様な主体が集うコミュニティや、世界との繋がりが形成

社名	スポーツX株式会社 (SPORTS X Inc.)
代表者	小山淳
資本金	11億7440万円 (準備金含)
設立	2017年10月 (前身は2009年 藤枝MYFC : 当時J3)
本社	京都府京都市
ミッション	スポーツの力で世界中の子供たちの未来と平和な社会をつくりたい
ビジョン	スポーツを社会インフラに
主な株主	京都信用金庫 (CVC) ・ ツネイシキャピタル 株式会社カヤック (東証グロース上場) 上場企業オーナー、電鉄会社オーナー他
事業内容	ハードインフラであるSSP (グラウンド・宿泊交流施設)、ソフトインフラであるアカデミー、トップチームの3機能を統合した「地域スポーツインフラ」を日本中・世界中に展開し、連動させる。 その事業展開を通じて、人づくり・まちづくり・国づくりに貢献する。

大郷町SSP事業を通じて実現すること

大郷町SSPを通じて実現すること

交流人口拡大



年間交流人口80万人・地域の持続的成長を支援
大郷町内の経済効果8億円超を実現

農業従事者拡大



30名超の労働力を確保し、農業生産能力を拡大
若い人材が就農し、人手不足・後継者不足問題を解決

雇用拡大



農閑期における雇用先／農業引退後における雇用先の創出
若い人材を世界に送り出す新しい環境（1日4時間程度～）

地域内取引拡大

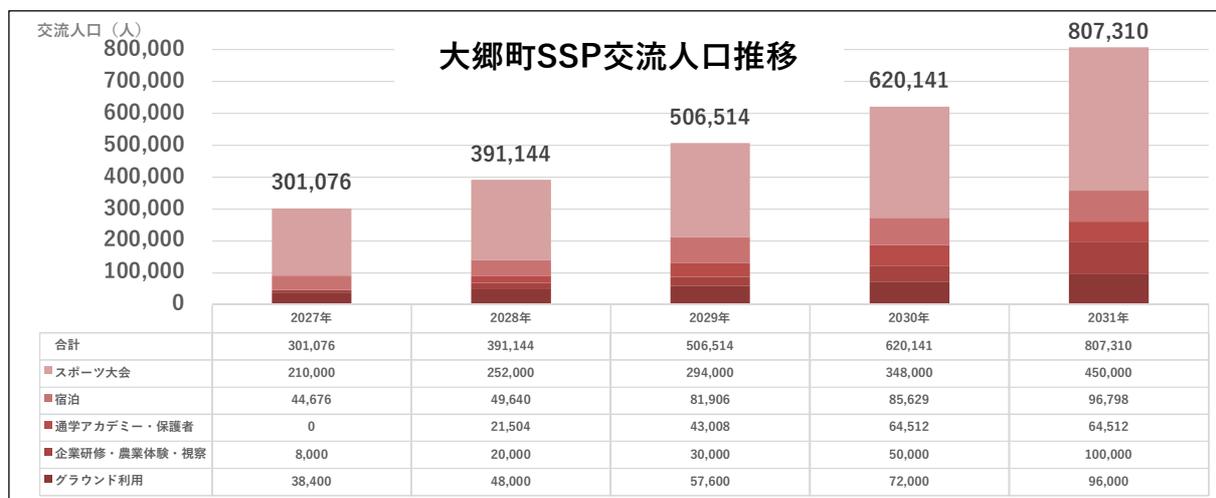


年間33万食を提供するにあたり、地元の食材を積極的に活用
地元企業が潤うことにより、街全体の財政も向上させていく

交流人口80万人を実現

国内外から多くの人々が訪れ、笑顔と賑わい溢れる街へ

大郷町SSP（スポーツ／宿泊施設）を活用し、スポーツ合宿・大会・企業研修・修学旅行などを誘致することで、年間80万人を超える交流人口を実現



- *【宿泊】はキャンプ事業における宿泊交流
- *【通学アカデミー・保護者】は2028年より開校する通学生のアカデミー生徒および保護者を想定。週4回・年間190回の通学
- *【グラウンド利用】は仙台市で運営しているフットサルコート3面の年間交流人口2.5万人の実績から算定
- *【企業研修・農業体験・視察】は企業や学校法人の運動会等のイベント利用の他、大郷町SSPにて新たに実施する農業体験や視察関係を想定

SSPで稼働・集客した人材を農業界へ

みちのく仙台FCの選手やアカデミー生は、仕事やカリキュラムの一貫として農業に従事。現時点では実質38名分の労働力が新たに追加される計画であるが、周辺農業法人との提携により柔軟に計画を修正していく。またキャンプ事業にてSSPに訪れた方々は、宿泊サービスの一貫で農業体験を実施することで興味を持ち、新たな雇用機会・事業展開に繋げていくための機会の種まきを進めていく。

就農人口	みちのく仙台FC社員 > 最大10名×週23時間=230時間≒約5.7人分の稼働時間 みちのく仙台FCアカデミー生 > 最大216名×週6時間=1,296時間≒約32.4人分の稼働時間	} 38人 が就農 <small>厚生労働省による農家平均労働時間から算定</small>
農業体験人口	通学制アカデミー > 最大126名 宿泊客（合宿大会・企業研修・修学旅行） > 9.6万泊	} 9.7万人 が農業体験 <small>観光農園事業を除き、SSP関係者のみの数字</small>

～人材不足だが正社員雇用が難しい農業界～

繁忙期と閑散期の差が激しい農業界では繁忙期の臨時的な人手不足／閑散期の仕事不足という課題がある。新規就農希望者も安定的な正社員雇用を望む中で現実とのギャップがあり、農家単体では解決が難しい。SSPではスポーツXグループが若い人材を募集・採用し、安定的に人材を供給するため、農家側の雇用リスクを削減することが可能。

農閑期・引退後の雇用を創出

地域の方々に安定的に雇用を創出

キャンプ事業では施設清掃・リネン交換・宿直対応・食事配膳・芝刈りなど、年間を通して安定的に人材を募集する必要がある（アルバイトでの雇用を想定）。身体的負荷が激しい仕事は選手が担いながら、高齢者の方でも対応可能な業務は地元の方々に依頼することで、不安定な収入を少しでも安定させることに貢献。

また、若い人材と日々触れ合うことで精神的にも健康になる効果も期待する。

宿泊施設の清掃



リネン交換

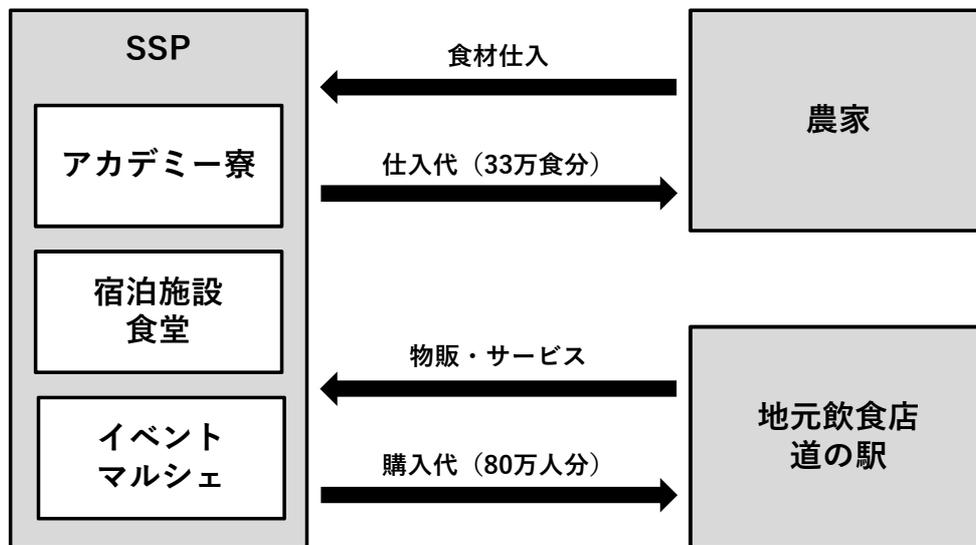


食事配膳



当社が運営する福山の施設では、キャンプ事業開催時に4～10名のアルバイトスタッフを雇用し、施設側の希望日時とアルバイトスタッフ側の都合があった場合に、清掃・リネン交換・食事配膳などを依頼させていただいている。数回実施することで覚えられる内容であり、地域の方々の重要な収入源となっている。

地元農産物・地元店の積極的利用による地域内循環



【キャンプ】 : 年間9.6万泊×食事提供2回=19万食 (平均仕入250円の場合、約5,000万の経済効果)
【アカデミー】 : 216名×330日×食事提供2回=14万食 (平均仕入250円の場合、約3,500万の経済効果)
【その他】 : 交流人口80万人×1,000円地域消費=約8億円の経済効果

大郷町SSP：実施事業

【実施事業】 アカデミー／キャンプ事業

主要事業はアカデミー事業&キャンプ事業

主要事業はアカデミー事業（教育）とキャンプ事業（合宿大会・宿泊）。運営主体者となるみちのく仙台FCの練習活動に利用する他、小中高校生年代のアカデミー活動を中心に12面を活用。東北・北関東・海外をターゲットとしたスポーツ合宿大会や企業研修・修学旅行を誘致し、施設をフル活用する。



アカデミー

小中高校生年代のアカデミー活動（クラブ活動）やスクール活動（お習い事）を実施。夕方以降は多くの子どもたちが集結する。



キャンプ

当社が運営している福山施設は年間8万泊の実績。スポーツ合宿大会・企業研修・修学旅行の拠点として人が集まる施設となる。



フィールドパートナー

Jリーグクラブの活動拠点として、多くのパートナー企業と共に大郷町で事業を展開。平日も企業やファンサポーターが訪れる施設となる。



グラウンド賃貸

J5以下の公式戦は観客席が不要のため、SSP内で宮城県・東北リーグの公式戦を実施。宮城県が抱えるグラウンド不足問題を解決。

【アカデミー】 寄宿制アカデミー



サッカートレーニング／公式戦



勉強（学校教育＋塾機能）



寮生活



農業実習・ビジネス実習

【アカデミー】 農業実習

6年にわたり様々な農業を経験、農家を未来の選択肢に

最大216名のアカデミー生徒が、日々のカリキュラムの中で農業実習を実施する。季節ごとに異なる農産物に触れることで農業に関するリアルな知識を習得し、将来の選択肢として農業を選択する人材を育成。また繁忙期に人手が必要な農家をサポートすることで、高齢化が進む農家の生産効率を高めていく。

※参考

216名の生徒が週6時間の農作業をする計画のため、週1,296時間分の人手（≒労働力）となる。農業法人が正社員を採用する場合の1名当たりの勤務時間（週40時間）と比較した場合、アカデミー生のみで32人分の労働力となり、学習機会を創出しながら人手不足対策・人材育成を行っていく。アカデミー生の農作業は仕事ではなくアカデミーカリキュラムの一貫として実施していく予定（アルバイトではない）

1年を通して様々な農作業・農作物に触れ、農業界“でも”活躍できる人材を育成

田植え/作付け



草むしり/環境整備



収穫



選別



【キャンプ】 スポーツ合宿大会事業



大会開催・公式戦



企業研修・修学旅行



宿泊・食事



農業体験

【キャンプ】 宿泊・ミーティング

グラウンド⇔施設の移動コストが無く、管理がしやすい

複数団体が一つの施設に集結し、各団体が練習・試合・食事・風呂・ミーティングといったクラブ活動を実施することができ、マネジメントコストを限りなく下げることができる（クラブ責任者としては、施設間移動の手配が非常に手間になる）。



【キャンプ】 商圏人口・商圏クラブ

バス3時間圏内総人口725万人・コアターゲット84万人

キャンプ事業における商圏人口はバスで3時間以内圏内。大郷町からバス3時間以内のエリア人口は約725万人、内14歳以下のコアターゲット層は84万人と十分なニーズ。



【キャンプ事業】

大郷町は東北自動車道と仙台松島道路の2つの高速道路の中間地点であり、自動車でのアクセスが非常に良いため、東北6県+北関東3県からの集客は十分に見込むことができる。東北6県+北関東の第四種クラブは620クラブ存在し（2022年度）、大きな市場があるが、現在はそれを取り込む十分な施設が無い状況

【アカデミー事業】

寄宿制アカデミーは完全寮生活のため、JFAアカデミー同様に選手は全国各地、世界各国から集客する。車で30分以内の人口は約71万人（選手登録者3500人以上）のため、通学生の生徒募集に関しても十分な市場があると言える。

【キャンプ】企業研修・修学旅行

周辺施設と連携しながら、300名超の大型団体を収容

キャンプ事業において企業研修・修学旅行は平日の宿泊利用客となるため、稼働率・収益率向上にとって重要な顧客となる。300名超（最大600名超）を一か所に滞在させることができる施設は数が少なく、規模の優位性を強みにしながら集客を図る

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企業研修	← 新入社員研修 →					← 役員研修 →			← 組合合宿 →			
	 ビジネスマナー 企業の歴史を学習					 役員育成 中期経営計画の作成			 社員の福利厚生 スキー場・ゴルフ場と連携			
修学旅行	← 新入生研修 →					← 修学旅行 →						
	 特別な体験・関係構築					 松島エリアと連携						

【キャンプ】企業研修・修学旅行

自然と施設を活用した特別なモノ・トキを提供

企業人事部や労働組合・学校法人の先生と連携しながら、社員の福利厚生やチームビルディング・モチベーションアップ・文化理解・学習環境提供などを目的とした事業を展開。



アウトドア研修
調理体験

近年ニーズが高まっているアウトドア研修では自然と触れ合う農業体験、屋外で行うBBQを中心としたサービスを提供し、普段のオフィスワークとは異なる環境下での関係性構築を図る。



運動会
スポーツ大会

会社内の縦・横・斜めの関係性をより深くするチームビルディングとして効果的な企業運動会の運営をサポート。プロ選手も一緒に混ざることでも可能で、社会人の運動不足問題の解消にも繋がる。



新人研修
役員研修
勉強合宿

新社会人・新入生としての心構えや文化を醸成する新人研修の他、会社役員が事業計画を作成する役員研修の場として大郷町SSPを提供。学校や塾に対しては隔離された環境で行う勉強合宿のサポートを行う。

様々な農作物を取り扱うことで年間を通じて集客可能

静岡県藤枝市の「YAMADA ブルーベリー・ファーム」は、ブルーベリーの観光農園として6月～8月の2か月間の稼働で年間来客数1万人、売上2000万円を達成している。また、広島県三次市の「平田観光農園」は、広島市中心街から車で1.5時間のアクセス条件ながら、複数果物を栽培する農園として年間16万人の来場者を達成している。大郷町SSPでは、大郷町内の農家と連携した農業体験を提供しつつ、周辺事業で検討している観光農園への集客を図る。



YAMADA ブルーベリーファーム（静岡県藤枝市）
年間60日の稼働ながら、年間来場者1万人達成



平田観光農園（広島県三次市）
150品目を取り扱い、年間来場者16万人達成

【パートナーシップ】

プロクラブの企業ネットワーク・より魅力的な施設へ

大郷町SSPは交流人口80万人を実現するだけでなく、様々な業種・商品・サービスの実証実験の場として、パートナー企業と共に研究開発を進めていく場となる。多くの人を訪れるクラブハウスは商品広告の場としても活用し、選手・アカデミー生（時には農家さん）を活用し、企業とも連携しながら新商品開発を進めていく。大郷町から新しいサービスを日本・世界へ発信する。



クラブハウスのパースイメージ図
最新車やITサービスなど様々な商品が展示され、ビジネスが加速していく環境を目指す



藤枝MYFC時代の商品開発の事例
ブランディングにクラブを活用し、一気に展開

【プロクラブ】地域の夢・希望・象徴

SPORTS X



Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

P31

【プロクラブ】Jリーグクラブの活動拠点

SPORTS X

選手が多能工的に営業・指導・農業を学ぶ、経験する

大郷町SSPを運営するにあたり、農業界の課題でもある「人材集め」が重要になる。当社はスポーツの力を活用し、Jリーグを目指すサッカー選手を集め、雇用し、練習環境を整備するとともに、ビジネスとして営業・サッカー指導・農業などを実施する。将来引退した選手は、スポーツXグループに籍を残したままビジネスに特化するが、農業を希望する社員「大郷町の農業」を守り伝えていく仕事を担っていく。



Copyright © 2024 SPORTS X. All Rights Reserved.

P32

(参考) J3 福島ユナイテッドの事例

福島ユナイテッド（J3）では、選手が地元農家と連携し、年間を通して農作物を栽培・収穫・販売を行う農業部を運営しており、福島の魅力を全国に発信している



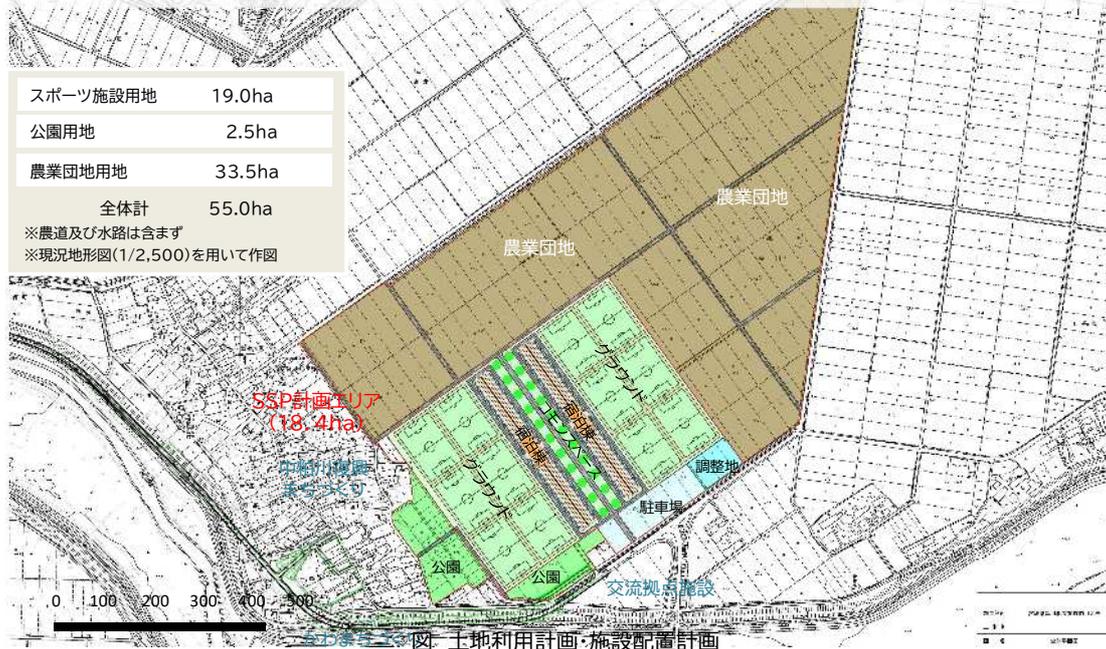
大郷町SSP：施設詳細

「農業×スポーツ」一体型教育施設開発

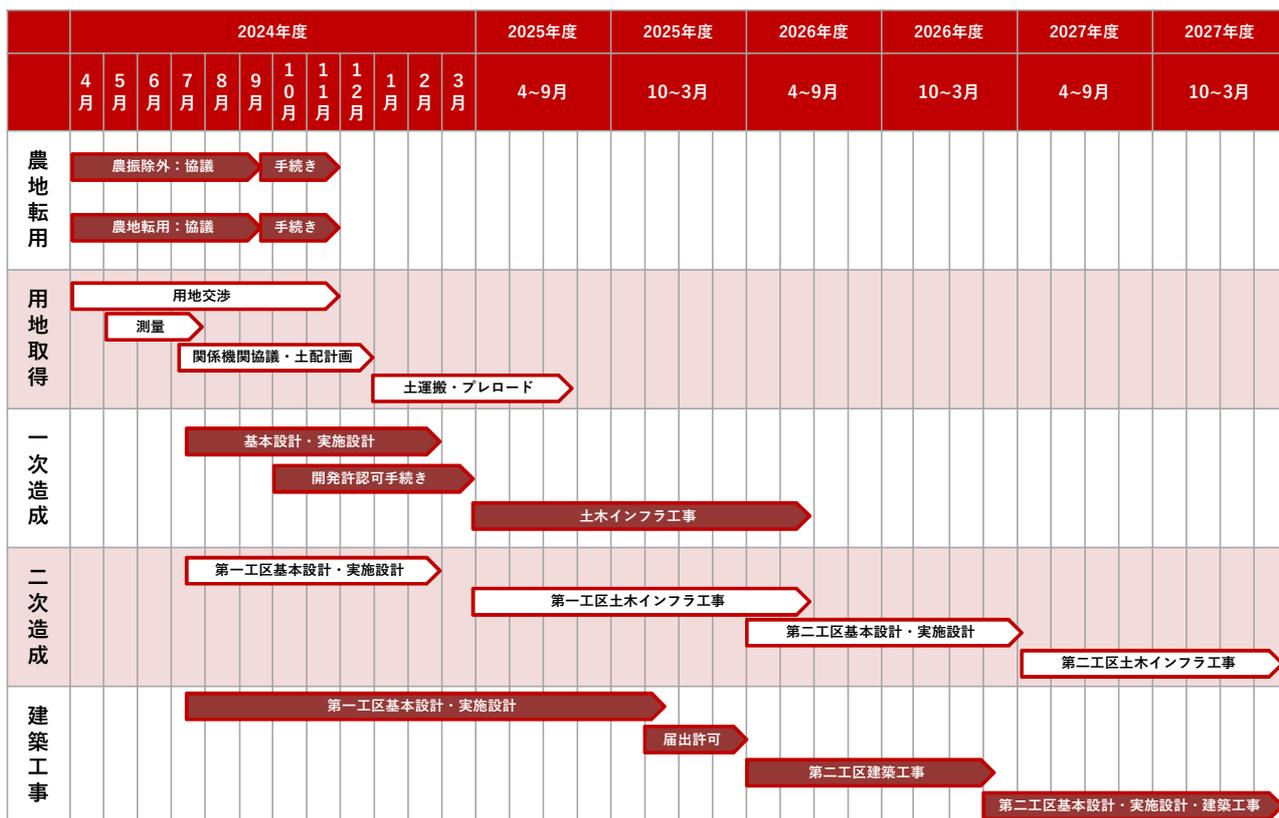
19haをスポーツ関連施設とし、周辺施設と連携

開発エリアはスポーツXが大郷町から土地を賃貸

スポーツXがグラウンド・宿泊施設を開発・運営（農業外事業にて独立採算で継続可能）



SSP事業：開発スケジュール



【事業収支】 経済効果

(千円)

	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年
地域内取引額	332,249	440,148	592,360	722,849	917,836
(食材仕入額)	22,338	36,700	64,713	78,454	84,039
(リネン)	8,935	12,304	21,133	24,253	26,487
(交流人口増に伴う地域内消費)	301,076	391,144	506,514	620,141	807,310
売上高	322,329	513,788	871,610	1,040,194	1,124,026
雇用者数 (スポーツX所属)	12人	20人	26人	26人	26人
給与支払額 (スポーツX所属)	82,000	106,000	142,000	142,000	142,000
定住移住人口	10人	82人	154人	226人	226人
交流人口	301,076人	391,144人	506,514人	620,141人	807,310人
(スポーツ大会)	210,000人	252,000人	294,000人	348,000人	450,000人
(宿泊)	44,676人	49,640人	81,906人	85,629人	96,798人
(通学アカデミー・保護者)	0人	21,504人	43,008人	64,512人	64,512人
(企業研修・農業体験・視察)	8,000人	20,000人	30,000人	50,000人	100,000人
(グラウンド利用)	38,400人	48,000人	57,600人	72,000人	96,000人

※地域未来投資促進法地域経済牽引事業計画に従って作成